ひろしまジュニア国際フォーラム　参加報告書

 盈進高等学校1年　池田風雅

まず、今回の“ひろしまジュニア国際フォーラム”参加にあたり、関わってくださった全ての方に心より感謝申し上げます。私はこの3日間を通じて、かけがえのない学びと経験を得ることができ、これからの平和な世界を作っていく若者の一人として、私たち一人ひとりが何をすべきかを考えることが出来ました。本当にありがとうございました。

私は、今回のフォーラムに参加し、自分の語彙力のなさ、知識の浅はかさを痛感しました。それ以前も、それほど英語に自信を持っていたわけではありませんでした。しかし実際に参加し、いざディスカッションしようとすると、ネイティブの発音と難易度の高い単語に大きく戸惑いました。自分の伝えたいことが伝えられないもどかしさやディスカッションについていけない悔しさもありました。しかし「絶対に伝えるんだ」という強い意志を持ち、諦めずに何度も話しかけていくうちに徐々になじむことが出来ました。また、大変恥ずかしいことですが、世界の現状について知らないことも多々あり、ディスカッションの内容がわからないということも何度かありました。これからの世界をつくっていくためには、自国のことのみならず、世界にも目を向けることの出来る広い視野を持つことが必要なのだと感じました。

私は今回のフォーラムで、たくさんのことを学びました。各国の政府がまだ「強い国」のシンボルとして核兵器に依存している状況があること。国連がその機能を充分に発揮できていないこと。被爆国・日本の言動に世界が注目していること、その中でも広島（長崎）は大きな影響力を持っていること。国際法の存在が核廃絶へ大きな縛りとなるであろうことなどなど。しかしその中でも、私が最も強く印象に残ったことは大きく次の二つです。

一つ目は「世界規模で連帯することの重要性」です。今回のフォーラムにはアジアを中心とする十六の国と地域から参加者がありました。それぞれの国の視点から被爆の実相や平和について、被爆地・ヒロシマで学び、考え、共有し、発信できたことで、世界各国の視点を自分の中に取り入れ、今まで気付かなかった視点にも気付くことができました。世界平和について考える上で、世界規模で連帯し、視野を共有しあうことはやはり重要なのだと改めて感じました。

二つ目は「平和構築において教育こそが最も大切である」ということです。何かをする上で、全ての基礎となるのが教育です。教育は子どもたちに学び、行動するチャンスを与えます。国連広報センターの根本かおる所長は開会式の基調講演で「若年層の貧困問題やジェンダー差別、国際紛争などの世界問題。解決するのは教育しかない」「『全ての男女が平等に教育を受けられる権利を、世界の連帯によって確立すること』。これこそが平和構築だ」とおっしゃいました。また根本所長は講演の中でマララ・ユスフザイさんの言葉を引用し、「教育は特権ではない」とおっしゃいました。まさしく“Education is hope. Education is peace.（教育こそが希望であり、教育が平和をつくる：マララさんの言葉）”だと心から感じました。

　また、私は8月30日、フォーラム参加者の中から選んでいただき、東京の国連広報センターと外務省に派遣していただき、私たちの3日間の成果である『広島宣言』を提出してきました。

　私は国連広報センターで代表生徒として、根本かおる所長に宣言を手渡しました。根本所長は力強い言葉で「あなたたち若者の力で世界は変わる」とおっしゃいました。この言葉は深く心に残っています。

　外務省では外務大臣と面会する機会をいただき、岸田外相に直接提出することが出来ました。外相と固く握手し、彼の目を見たとき、私たちの思いが伝わってくれたと確信しました。

私たちの平和宣言の中に「平和構築において、無関心が最大の課題だと認識します」という一文があります。私は平和構築の反対は無関心だと信じ、地道に謙虚に活動をしていきます。